

はじめに

近年の急速な少子化の進行は、将来の我が国の社会経済全体に深刻な影響を与えるとともに、地域生活を基盤から揺るがす事態をもたらしています。平成19年の国の合計特殊出生率は1.39人で、北海道は1.19人、富良野市では1.29人となっています。一般的に人口の自然増減の境目は2.08人とされており、今後、少子化がますます進行していく状況にあります。

また、共働き家庭の一般化や地域社会の連帯意識の希薄化、子育てやしつけに対する不安や負担感など、子育てに対する意識の多様化とともに、家族や地域社会の姿が大きく変化してきております。

このような中、平成15年に「次世代育成支援対策推進法」が制定され、従来の子育てと仕事の両立支援に加え、次代を担う子どもが健やかに生まれ育つ社会の形成のための様々な取り組みが行われております。

本市では、平成17年に「富良野市エンゼルプラン(平成13年策定)」を包含した「富良野市次世代育成支援地域行動計画」を策定し、「子どもの幸せ 子育ての喜び - 協働・感動の子育て支援をめざして - 」を基本理念として施策、事業の推進を行い、次代を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう環境の整備・充実に取り組んできました。

後期計画は、平成17年度から平成21年度までの前期計画を引き続き継承しながら進捗状況や課題を整理し、新たな推進事業の追加と仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をはじめとする子育て環境の整備を図り、次世代育成支援を推進していくための計画であります。

子育て家庭を取り巻く地域・企業・行政が一体となって、医療・保健・福祉・教育等の関係機関と連携し、本行動計画の次世代育成支援対策を推進してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、計画の策定にあたりましては、各関係機関や団体の皆さまをはじめ、アンケート調査にご協力をいただきました皆さまに深く感謝申し上げます。

平成22年3月

富良野市長 能 登 芳 昭